

令和7年度 勝山高等学校 学校関係者評価書

<p>観点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価書の成果と課題が適切かどうか ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か ・学校評価アンケートの実施方法と内容に関する問題点について ・その他
<p>評価者</p>	<p>PTA会長・PTA副会長(3名)・同窓会副会長</p>
<p>ご意見 (教育課程・ 学習支援)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・ポリシーに沿った授業実践や授業計画再設計に取り組んだ教員が目標指数を越えていることは素晴らしいが、毎年、「あまり取り組んでいない」の回答も数人あり、その理由を知りたい。 ・AIはどのように導入されているのか。 ・すぐに正解を求めるためのものではなく、思考を深めるためのツールとして利用しているが、今後活用法を研究していかなければならない。
<p>ご意見 (生徒支援)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の「身なりを整え挨拶をしっかりと行うことがあまりできていない」、「学校はいじめ防止の取組をあまり行っていない、していない」の回答について、その内容の分析はできているのか。自分の子どもがいじめにあっているのに学校側の対応が十分でないと感じているのであれば問題である。保護者に学校の取組が伝わっていない部分もあるのではないかな。
<p>ご意見 (進路支援)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路支援については担任をはじめ関係する教職員の方から十分な支援があったと感じている。 ・模擬試験の有効活用について、教員も生徒も目標指数を下回った原因を把握し、次年度の取組に活かして欲しい。 ・授業では模擬試験の指導以前に教科指導を十分行う必要があり、授業や自宅学習の中での時間確保を工夫していかなければならない。
<p>ご意見 (保健管理)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化の取組や教育相談体制について、十分ではないという回答が1割を超えているのは何が原因か。学校の取組が保護者に十分伝わっていないことも考えられる。 ・不適応やいじめ、特別支援を必要とする生徒の把握や情報共有に取り組んでいる教職員の割合が高いのは評価できるが、情報共有にとどまらず、その後の対応にもしっかりと取り組んで欲しい。
<p>ご意見 (主体性の育成)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動がその後の進路につながっているのか、生徒や保護者には不安もある。探究活動と進路に関する目標を立てて欲しい。 ・高校での探究活動を大学の総合型選抜や学校推薦型選抜に生かしてチャレンジしている生徒もいるし、そのような入試を実施する大学も増えているが必ずしも直結するものではない。長期的な視点で見れば決して無駄なことではないし、今後ますますそのような力を持つ人材育成が求められている。その一方で基礎的な学力をつけていく必要もある。
<p>学校関係者評価の結果をふまえた今後について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校がどのような取組をして、どのように生徒や保護者に働きかけているのかが見えにくく、アンケートも答えにくい部分がある。具体的な取組を伝え、アンケートの取り方も工夫していく必要があるのではないかな。